

研究テーマ：地方創生（人口減少問題）

1 現状と課題

人口減少問題とは、少子高齢化に伴う人口減少により、社会保障費の増大し、最悪の場合、自治体の財政は破綻を招くなど、自治体が解決すべき喫緊の課題である。

2 視察の目的

上記の課題を解決すべく、地方創生に先進的に取り組む自治体を視察し、課題解決の方法を研究する。なお、視察先の選定基準は以下の政策を実施している自治体とした。

- (1) 国依存で無く、地域の特性を活かした政策
 - (2) バラマキで無く、持続的・効果的な政策
- 以上より、福井県鯖江市、富山県朝日町を選定した。

3 福井県鯖江市

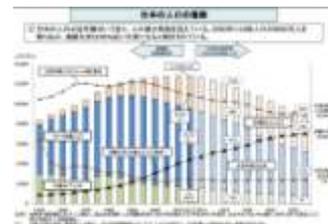
- (1) 政策例：ゆるい移住、JK課（〇〇課）、クラウドファンディング、データシテティ
- (2) 学んだこと
 - ① 全国初など斬新な政策で、世間の注目を集め、市の魅力を発信し続けている。
 - ② 失敗を恐れずチャレンジし続けている。
 - ③ 住民を参画させている、巻き込んでいる。

4 富山県朝日町

- (1) 政策例：笹川地区 定住・移住促進事業（ふるさと移住交流館事業）
- (2) 学んだこと
 - ① 時代に流されず、今ある魅力を再発見し、活かしている。
 - ② やみくもに人口増加に取り組むのではなく、地域の強みを活かし、持続可能な取り組みを行っている。

5 視察で学んだこと（人口減少問題の解決・地方創生に必要なこと）

首長・職員・住民が地域を愛し、地域の魅力を発掘し、発信・行動することが重要である。



鯖江市役所JK課
Saba City Office JK section



平成28年度先進地視察研究<四王寺塾> 第2班 研究報告【概要版】
公共施設管理～これからの施設のあり方について～

1. 全国の状況

「公共施設の老朽化」

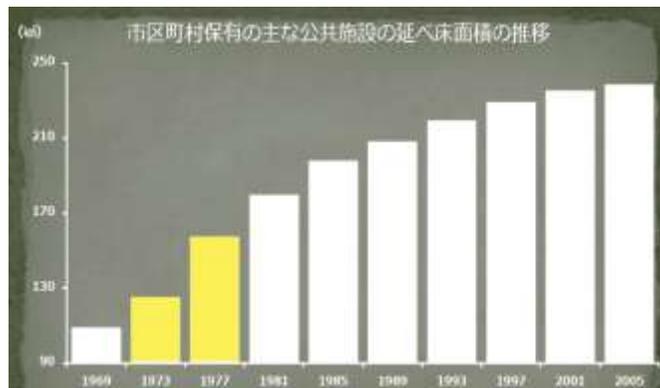
全国の公共施設は、1970年代に最も増加しており、その施設は、今後、一斉に大規模改修・修繕時期を迎える。

「人口減少」

少子高齢化、生産人口の減により、公共施設に求められるニーズは、変化をしている。

「厳しい財源」

人口の減少により、税収が増える見込みはなく、社会保障費の増加により、老朽化を迎えた公共施設への投資的経費を確保することは困難。



2. 先進地への視察

「静岡県焼津市」

学校と公民館、保育園3園の統合等公共施設の複合化について積極的な取り組みを行っている。

「岡山県新見市」

全国でも類を見ない大規模な複合化施設として平成13年に「きらめき広場・哲西」を建設！



「複合化の効果」

複合化施設は、施設利用者数の増加や地域間での交流の場として活躍をしているしかし、施設面積の削減や、維持管理費の削減には至っていない。

3. まとめ

「施設複合化の目的」

単純に維持管理費用を抑制するための手段として考えるのではなく、施設の「魅力」を上げる手段として考える。

施設の公共施設は、多くの方に利用してもらうことが大切！

多くの方に利用してもらうことで、施設の利用料の値下げに繋がり、より一層の利用者数の確保にも繋がる。

「公共施設管理とは」

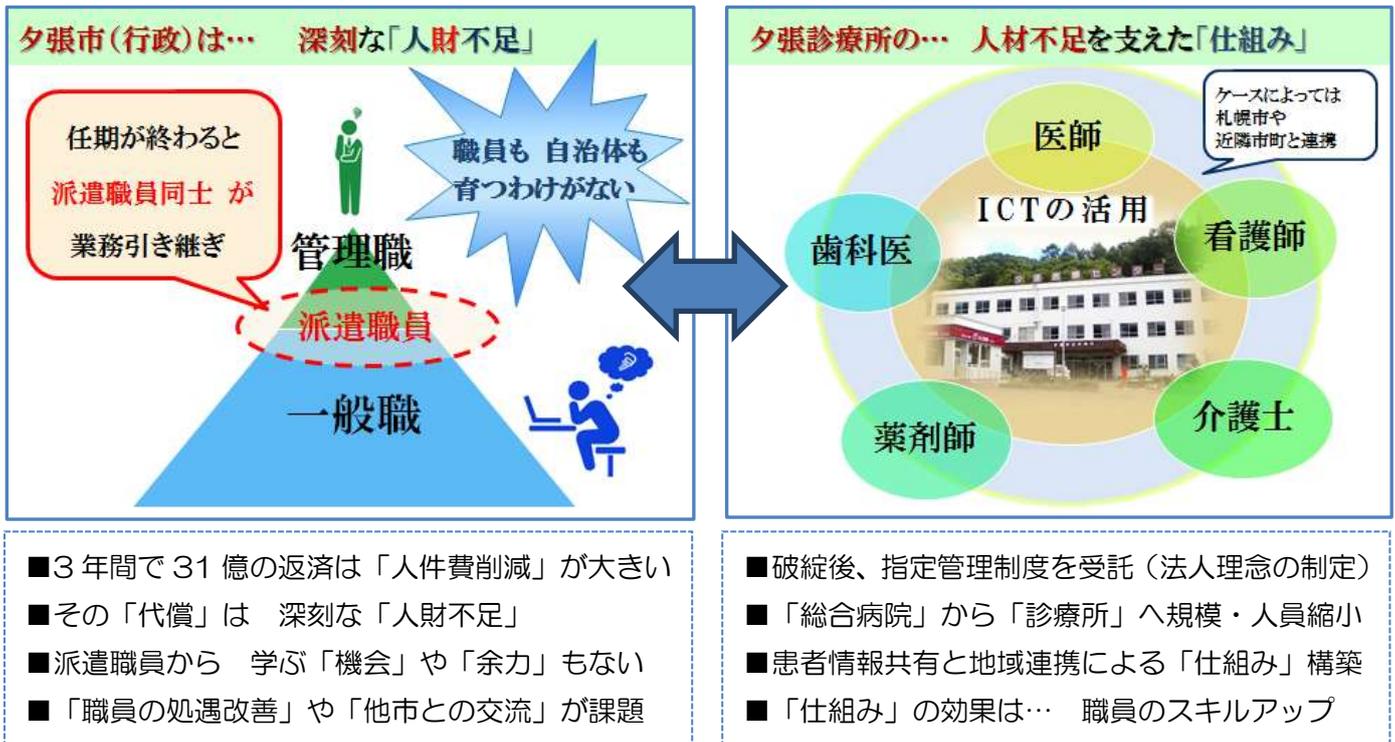
施設の削減を前提に考えていくものではなく、まちづくりの一環として。変化する住民ニーズに合わせてその施設の機能が本当に必要かどうかを住民・行政が共に理解し、自治体の財政状況も踏まえて考えていくことが重要。

魅力あるまちづくり ～それでもこのまちに住みたい～

福岡県内多くの自治体が直面している課題「財源縮小に向かう行政のあり方とは？」唯一の財政再生団体である「夕張市」それでも市民がそのまちに住み続ける魅力とは何か？

破綻後 10 年を迎えた「夕張市」の現状から、私たちが学んだこととは！私たちにできることとは？すべきこととは？

【視察の結果】



【学んできたこと！ 私たちにできること！ すべきこと！】



- 仕組みづくり
 - ・ 財政状況や規模に応じた「仕組み」
 - ・ 住民ニーズに合致するための「仕組み」
 - ・ 行政を担う職員育成のための「仕組み」
- できることとは？
 - ・ 「指定管理者制度」の有効活用等
 - ・ 「一部住民の声」か「住民ニーズ」か 見極める
 - ・ 職員が育つ「職場環境」であるか「検証」する
- すべきこととは？
 - ・ 「受託先」の十分な検討
 - ・ 特定の住民に左右されない、正確な情報収集
 - ・ 職員自身が「工夫」する努力をする

市民が「このまちに住みたい」と思えるようなまちづくり。鍵を握るのは「行政職員」です！私たちの「創意工夫」によって「仕組み」を構築し、住民と協働の魅力あるまちづくりをめざしましょう。